

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
52	川崎市立小杉小学校	吾妻 典子

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>教育理念【豊かに生きる】 「自分をつくる」自ら学び、自分を振り返る子 「ともに学ぶ」違いを認め力を合わせる子 「わたしたちの小杉」役割を担い学校をつくる子</p>	<p>1学力の向上 2社会性の育成 3自主性・主体性の育成 4開かれた学校づくり</p> <p>・工夫ある学びの授業づくり ・違いを認め力を合わせることの大切さが実感できる教育の推進・約束の浸透 ・学年に応じた参画意識の向上・集団生活の向上をめざした特別活動の充実 ・人と人とがつながる温かな環境づくり</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 ○学級経営を大切にしたい授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う授業構成や思考を耕すための体験学習、対話的学習の取組 ・GIGA端末の活用 ・教職員の複数対応による見取り・教科担任制・専科指導 ・授業力向上のための教職員の研修 ・GIGA端末の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・96%の児童が「自分の考えをすすんで伝え、友達のをよく聞いている」と回答。体験学習を通して、気づきや探求する態度においては、90%の回答ができていたとの結果がみられた。「個別最適な学び」を授業実践し、GIGA端末の有効的な活用を用いながら互いの意見を尊重してきた結果と言える。また、人と人とのかかわり合いが増えたと言える。 ・保護者も87%が「学校は取り組んでいる」と回答しているが、8%が「わからない」と回答。学年・学校だより・授業参観等でお知らせしてきたが、全体への認知度に課題が残る。 ・本校ではかかわり合いながら学びを深めていくために、児童にどのような力を育成していけばよいか、学年の発達段階に応じた手立てを考えてきたおかげで、自己肯定感の数値も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、さらに学年の発達段階に応じたより丁寧な取組をしていく。 ・保護者への周知については、授業参観等でSOSの出し方等の公開や学年だより等で共生・共育プログラムの内容を定期的にお知らせを図る。 ・保護者の方々実際に目で見たり、子どもの変容で理解できる取り組みを周知の仕方を改善していく。 ・他にもホームページでの「小杉ダイアリー」や授業参観での授業公開等で、子どもたちの学びの姿を周知していく必要がさらに必要である。
2 ○一人ひとりの違いを認め、人権を守る教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う授業構成や思考を耕すための体験学習、対話的学習の取組 ・道徳・共生プログラムの中で、一人一人の違いを認め、人権を守る教育活動 ・教職員の複数対応による見取り・教科担任制・専科指導 ・キャリアパスポートの活用 いじめの未然防止4・早期発見、初期対応の取組 ・児童・担任との信頼関係の構築とSCさんの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・95%の児童が「いじめはいけないこと」という意識をもっている。また、人権学習等においては、20%の保護者から「学校の取組がわからない」と回答。「困ったことがあった時すぐに先生に相談できる」と回答している児童79%、「できない、わからない」と回答しているのが10%となっており、課題とらえている。 ・今年度、初期対応や早期解決に向け、学級担任とともに学年や学校全体で連携しながら取り組んだ。教職員がいじめの行為やいじめの芽を見逃さない意識をもつとともに、年2回、ほっとスマイルアンケート(いじめアンケート)を実施し、担任はアンケートの回答から児童一人ひとりと面談を進めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き道徳・共生共育プログラム等人権学習の継続して行っていく。 ・いじめにおける早期発見のため、アンケート(年2回)を来年度も行う。 ・担任だけの判断だけで進めるのではなく、COやSCとともに複数対応を継続していく。
3 ○いじめを生まない学校づくり	○いじめを生まない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・97%の児童が「いじめはいけないこと」という意識をもっている。20パーセント保護者から「学校の取組がわからない」と回答。「困ったことがあった時すぐに先生に相談できる」と回答している児童93%、昨年度よりも14%も上がっている。担任との関係性が友好的に築けていることがうかがえる。 ・今年度、初期対応や早期解決に向け、学級担任とともに学年や学校全体で連携しながら取り組んだ。教職員がいじめの行為やいじめの芽を見逃さない意識をもつとともに、年2回、ほっとスマイルアンケート(いじめアンケート)を実施し、担任はアンケートの回答から児童一人ひとりと面談を進めてきた。しかし、保護者の皆さんの認知度は低い結果となった 	<p>日々の学校生活の中や、道徳・人権学習を通して、よりいじめ「やってはいけない」に対する意識を100%にしていきたい。</p> <p>人権習慣や・共生共育プログラム・ほっとスマイルアンケートを取りながら、子供たちの内面にいち早く寄り添えるような手立てをしっかりと、講じていきたい。</p>
4 ○一人ひとりの違いを大切に、子どもの心を耕す取組	<ul style="list-style-type: none"> ・共生*共育や人権教室の推進 ・キャリアノート活用の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達や自分のよさを認め合っている」と回答した児童が97%。学校での取組について「わからない」と回答している保護者が11%。 ・本校では、年7時間以上の共生*共育プログラムや「かわさき子ども権利条例」等の学習に計画的に取り組んできた。互いの違いや多様性に気づき、その違いを大切にすることに取り組んできた。キャリアパスポートでは、自分のよさについて見つけ、自分を肯定的に振り返る学習も行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権習慣や授業参観・小杉だより・学年だより等を通して、保護者の方々に周知していきたい。
5 ○基本的な指導や学習の習慣づくり等での一貫した指導	・「よくわかる小杉小学校」の見直し・作成	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかる小杉小学校」についてアンケートでは、94%の児童が「やくそく守ろうと努力している」と回答し、児童が自ら努力をしている様子がうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約束の項目内容について、今後児童が自分たちでこの約束を見直して約束づくりをしていくなど、主体的に学校生活の改善に取り組むことが大切。

6	<p>○児童の集団への所属意識を高めるため特別活動の充実 ○児童による学校行事の参画</p>	<p>・児童会活動や委員会活動の充実 ・異学年との交流 ・学級活動の充実</p>	<p>・児童・保護者・教職員とも90%以上が「児童会活動や学級活動、行事等で主体的に取り組んでいる」と回答。 ・開校して5年目の今年度は、コロナ禍による様々な制約が外され、教育活動大きな幅を持たせながら、取り組んできた。 ・自分たちの生活をよりよくするための委員会活動を中心とした活動の中で、高学年のリーダーシップが見られた。 ・行事における自分たちの役割をどの学年もきちんととらえ、活動を行っていた。</p>	<p>・今後も自分たちで小杉小学校をつくる意識をもたせる充実した取組ができるようにさらに場を考えていきたい。 ・特別活動や行事等への児童の参画には、教職員全体の意識や共通認識が必要であり、子どもと教職員との足波をきちんとそろえながら、様々な実施を考えていきたい。</p>
7	<p>○情報活用能力の育成</p>	<p>・かわさきGIGAスクール構想の推進 ・1人1台の端末を活用した情報活用能力を育てる授業</p>	<p>・GIGA端末の活用については、今年度、GIGAスクール構想研究推進校として、テーマを「一人一人が主語となる学び」とし、「個別最適な学び」「協働的な学び」等で自己課題解決型の授業展開を行い、授業に取り組んできた。95%の児童が「よりよく学ぶために使っている」と回答し、教職員も全員がその取組を「進めてきた」と回答している。 ・授業の中で、情報の収集だけでなく、個々の課題解決や互いの意見を伝え合う場や自分の意見を整理するために使うことも進めてきた成果と言える。</p>	<p>・さらに、個別最適な学びを位置づけとした授業改善のなかで、様々な学習場面での有効な活用を実践していく。 ・情報モラルの理解と順守にも努め、学年に合った指導を行い、保護者と共有していく取組を今後も進めていく。</p>
8	<p>○体験活動を通じた気付きや課題を探究する態度の育成</p>	<p>・生活科・総合的な学習の時間 ・自己決定と行動にうつす力や折り合いをつけていく力を育成する特別活動</p>	<p>・90%の児童が「学習の中で気付いたことやわからないことについてもっと考えたり、調べたりしている」と回答す。自分の学びを深めるために、さらに次の課題に取り組んでいく意欲的な様子がみられる。 ・今年度は、市制100周年もあり、生活科や総合的な学習で地域とのかかわりがふえた1年であった。小杉のまちを対象に、小杉小学校の周辺地域について学習を進めてきた。児童は、実際に見学ができ、交流も図りながら、小杉のまちの素晴らしさを実感することができた。</p>	<p>・まだまだ歴史の浅い学校であるために、地域とともに共存していく学校であることを実感させる必要がある。そのためには、地域に実際に出向き、多くの人と知り合う中で今児童が自ら探求心や課題をもって取り組む授業を進めて行くことが必要。 ・さらに保護者の方々にも活動の中で、ボランティアとして、お手伝いいただきながら子供の育ちをともに見ていただけるように図っていく。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>(学校教育推進委員から)年2回実施 ・PTAや地域の協力は、これからも積極的にしていきたい。 ・会の中の運営委員会の発表や運動会などの大きな行事などで高学年の活躍がすごいと思った。 ・もっと地域や保護者PTAなどとの交流の場を作っていきたい。 ・中々学校全体の行っているすべてを理解できていないことは感じる。本日の話を聞いて理解したこともあった。 ・周知にはもう少しばらく、時間がかかるのでは・・・ ・ホームページでの「小杉ダイアリー」などを通して、子どもたちの様子を少しでも見ていきたい。</p>	<p>・本校の学校目標を達成していくためには、今求められている個別最適な学びと協働的な学びの実現が不可欠で、さらに校内研究などの教職員の研修を通して、本校の児童に必要な学び方を全教職員で共通認識しながら実践していくことが必要。 ・創立から5年が経ち、その中の3年間でコロナ禍であった本校の教育活動は、まだまだ幅のある教育活動ができてものと思っている。今後も引き続き、本校の児童にとって大切なものをきちんと見極めて教育活動を検討していく必要がある ・児童の心のバランスや弱さを感じることが多い1年であった。児童支援体制を充実させるために、教育相談的な支援やかかわり方が今後より必要になっていくと感じる。 ・子どもは「行きたい学校」保護者は「行かせたい学校」教職員は「働きたい学校」地域は「協力したい学校」となりうるべく、来年度も教育活動の充実を図りながら進めていきたい。</p>